

令和5年度 第2回 埼玉県北部地域保健医療協議会 議事概要

1 日時及び会場

日 時：令和6年3月8日（金）午後7時から午後7時40分
場 所：ZOOM（議長のみ熊谷保健所相談室1）

2 出席者

- ・協議会委員（別紙名簿のとおり）
委員総数 33名 出席者 29名
- ・事務局
保健医療政策課、医療人材課、本庄保健所、熊谷保健所
- ・傍聴者 1名

3 あいさつ

遠藤委員（本庄保健所）
小林議長（熊谷市医師会会長）

4 議題

（1）議事1 第8次地域保健医療計画にかかる圏域別取組（案）について

資料1に基づき熊谷保健所から説明。委員から圏域別取組についての意見はなし。各市町からこれまでの取組について報告があった。

【質疑・応答】

（神川町森委員）

藤岡市に隣接する町であり、緊急搬送の約半数が藤岡市への搬送ケースとなっている。連携するという点について、目標を設定したうえで取り組んでいただきたい。

（本庄保健所）

約2年前から群馬県との連携のため会議等を行っているが、直接的な成果が出にくい分野でもある。今後、具体的な成果を出すためにも保健所の課題として取り組んでいきたい。救急医療や災害時医療など、保健所単位で動くことの難しい分野もあるため、県庁と連携して取り組んでいきたい。

（児玉郡市広域消防本部立石委員）

群馬県への搬送も多いが比較的スムーズな搬送が増えている。群馬県の医療機関がかかりつけという患者も多いため、コロナのような緊急事態にも県外搬送ができるとよい。また、在宅医療が推進されると不搬送案件の減少も見込めるのではないかと考えている。

（小林議長）

ACPも含めて検討が進められるとよい。

（本庄市児玉郡医師会鈴木委員）

本庄保健所管内の市町と藤岡市や伊勢崎市はある意味一つの医療圏としてとらえることができる。患者にとって県外に救急搬送されるのは当然と考える場合もある。小児救急に

ついても小児科医も少なく、本庄市児玉郡のみで対応することは困難である。藤岡市や伊勢崎市の協力も得ながら地域全体で取り組んでいく必要がある。県には医療圏一体となって取り組めるよう支援してほしい。

以上